

# 真宗開祖に迫る秋

浄土真宗の開祖・親鸞を、全国の寺宝やクラシックなどで紹介する「親鸞展」（日刊県民福井、中日新聞共催）が三十日、福井市立郷土歴史博物館で始まった。親鸞の七百五十回忌に合わせて全国約二十九所で展示しており、同博物館では初の巡回展。初日から大勢のファンが訪れた。＝関連⑩面

（土屋晴康）

福井市立郷土歴史博物館

巡回展が開幕



これまでに催した東京や新潟など八会場では、計約九万人が来場した。今回は「法然との出会い」「関東での布教」など親鸞の生涯を八つのコーナーに分けて紹介している。

親鸞の弟子の名前などを記した巻物「親鸞聖人文侶交名」茨城県文化財など、鎌倉時代から現代の親鸞にまつわる全国の貴重な文化財をはじめ、親鸞の著本（国宝）を最新技術で精巧に複製した資料など約五十点が並ぶ。県内からは、鯖江市横越町の證誠寺が所蔵する親鸞の長男・善鸞の肖像画が展示されている。

弾圧を受けて、京都から越後（新潟県）へと流罪になる途中に通ったとされ、各地に親鸞の伝承が残る「真宗王国」福井だけに、会場では、開幕を待ちわびたファンが展示物の

数々を興味深げに鑑賞していた。

越前市西尾町、農業東川茂左エ門さん（七〇）は「九十歳まで生きた親鸞の歩みがわかった。福井には仏教の教えが根付いている」と感慨深げだった。

十一月二十九日まで開催。開館時間は午前九時～午後五時（十一月五日までは午後七時まで）。観覧料は一般八百円、高校・大学生六百円。期間中は無休。



親鸞の生涯に関する展示品を興味深く鑑賞する来場者たち  
30日午前、福井市立郷土歴史博物館で（蓮覚寺宏絵撮影）